

『小さな勇気』

滋賀県近江八幡市

八幡西清流館道場

中学2年生 戸川 あやめ

全国制覇目指して頑張っていた。去年の全中出場が決まった時に私が思った事だ。中学生になった私は一年生で全中という夢の舞台に立つ事ができた。全国制覇を目標に頑張っていた姉がキャプテンをしていたチームには、三年生6人、二年生1人の7人の先輩がいた。だが姉や先輩達の全中が終わると、私の団体戦も終わってしまった。新メンバーは先輩と私の2人だけ。もちろん団体は組めない。それでも個人戦で全中に出ようと約束した。二年生になった時、今まで稽古に来てくれていた姉や先輩も卒業し、一気に人数が減ってしまった。気持ちを維持するのが難しくなった。さらに1ヶ月くらいたって、一緒に全中を目指そうと約束した先輩も練習に来なくなってしまった。1人になってしまい、今まで以上に不安もつゆり、稽古するのが辛くなった。モチベーションもどんどん下がっていった。そんな私を姉は心配してくれた。しかし、私を励まそうとした姉の「同級生が多すぎても大変なこともあるで。」という言葉で私の気持ちは爆発してしまった。「お姉ちゃんは団体が組めるから、1人のさみしさなんてわからへん。」大げんかになった。しかし、私は姉がチームをまとめる中で多くの苦勞をしたことも知っていた。だから姉の言ったことも分かる。でも私の心は沈んでしまった。

そんな時、同じ道場に通っている後輩が、私と同じ状態にあることに気づいた。稽古の時、誰よりも大きな声を出し、キャプテンとして頑張っている女の子だ。今年の六年生はその子1人。五年生も1人であとは低学年ばかり。しかし、その子はどんな時でも一生懸命頑張っていた。チームが組めるかも危ぶまれていた中で、今年も全国大会への出場を果たした時、私は、周りを見ず自分の事しか考えていなかった自分の弱さに気づいた。そのことに気づかせてくれた後輩に私はとても感謝している。1人でも頑張っていこう、そう決意した。

そんなある日、私の心をゆさぶるとてもショックなニュースに出会った。テレビでジャーナリストの山本美香さんがシリアで戦闘に巻き込まれ亡くなったと伝えていた。山本さんは戦場取材に行き、現地の子供達の生活を世界に伝える仕事をしていてとニュースで知った。いつ死ぬかもしれない、そんな仕事だ。亡くなる直前のビデオも放送していた。とても怖くて目を伏せたくなった。私にはとても真似できない。でも山本さんは「私は死なない。大丈夫だ。」と周りに言っていたそうだ。そうまでして山本さんが伝えたかったことは何なんだろう。世界にはこの瞬間にも、戦争によって意味もなく殺されていく子供がいる。その悲惨さを伝えたかったのではないか。そして、私達子供自身がそれをなくしていけるようになってほしいという願いなのではないかと私は考えた。その思いが山本さんを動かしていたのだと思う。剣道修練の心構えの中に「国家社会を愛して、広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」という一文がある。剣道を正しく真剣に学ぶことによって、その言葉にふさわしい人間になりたい。

今の私には死ぬかもしれない戦場に行くような、そんな大きな勇気は持てそうにない。でも自分の弱さに負けないというような小さな勇気でいいから持ちたいと思う。そのために、今生きていることに感謝し、剣道ができる喜びをもっと真剣に考えたい。そして剣道はもちろん、勉強や日常生活など、どんなことにも一生懸命に取り組み、今を大切にしたいと思う。そんな小さな勇気を積み重ねていって、いずれは山本さんのように、世界で活躍できるような大きな勇気を持ちたい。